

泌 尿 器 科 紀 要

第 25 巻 第 11 号

1979年11月

第3回 泌尿器がん化学療法研究会学術集会

睪丸腫瘍の治療成績.....	生間昇一郎・ほか.....1121
肺転移症例の検討.....	原田 卓・ほか.....1129
過去7年間における睪丸腫瘍の治療成績.....	出村 愧・ほか.....1137
睪丸腫瘍に対する多剤併用化学療法の試み.....	藤井 昭男・ほか.....1143
転移性睪丸腫瘍に対する化学療法の検討.....	小角 幸人・ほか.....1151
絨毛癌要素を含む睪丸腫瘍4例の化学療法の経験.....	大見 嘉郎・ほか.....1157
Non-seminomatous germinal testicular tumor の化学療法の経験.....	三木 恒治・ほか.....1163
Vincristine, Actinomycin D, Bleomycin の	
3者併用 (VAB) による非精上皮腫性睪丸腫瘍の化学療法.....	添田 朝樹・ほか.....1171
睪丸腫瘍の化学療法: まとめ.....	岡島英五郎・ほか.....1177
両腎摘除ラットにおける胸管リンパ液中 ABPC および CEZ 濃度.....	桐山 奮夫・ほか.....1181
ABPC, CEZ, KM および OLM の膀胱壁移行に関する実験的研究.....	桐山 奮夫・ほか.....1187
腹部 Stoma に対する Stomahesive の使用経験.....	守殿 貞夫・ほか.....1199
上部尿路感染症に対する硫酸ジベカシン (DKB) の	
使用経験——点滴静注法の臨床的検討——.....	竹崎 徹・ほか.....1205
膀胱腫瘍に対する FT 207 膀胱内注入療法.....	上田 正山・ほか.....1211
前立腺癌に対する Estramustine Phosphate (Estracyt®) の使用経験.....	三木 誠・ほか.....1217
前立腺癌に対する Estramustine Phosphate	
(Estracyt®) の臨床効果について.....	瀧田 徹・ほか.....1227
排尿障害に対する保存的治療——八味地黄丸の使用経験について——.....	有馬 正明・ほか.....1231
排尿障害に対する八味地黄丸の使用経験.....	黒田 昌男・ほか.....1235

CONTENTS

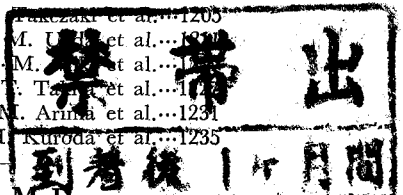
Results of Treatment for Testicular Tumors.....	S. Ikuma et al.....1121
Lung Metastasis of Testicular Tumor and Numerical Simulation.....	T. Harada et al.....1129
Prognostic Observation of Testicular Tumor for the Last Seven Years.....	A. Demura et al.....1137
Multiple Drug Chemotherapy for Testicular Tumors.....	A. Fujii et al.....1143
Chemotherapy of Disseminated Testicular Tumors.....	Y. Kokado et al.....1151
Chemotherapy of Metastatic Testicular Choriocarcinoma.....	Y. Ohmi et al.....1157
Clinical Observation of Combination Chemotherapy	
of the Non-Seminomatous Germinal Testicular Tumors.....	T. Miki et al.....1163
"Vincristine, Actinomycin D, Bleomycin" Combination Therapy	
for Disseminated Non-Seminomatous Testicular Tumor.....	A. Soeda et al.....1171
The Chemotherapy of Testicular Tumors: Comment.....	E. Okajima et al.....1177
Studies on the Movement of Aminobenzylpenicillin, Cefazolin,	
Kanamycin and Oleandomycin through the Isolated	
Urinary Bladder.....	T. Kiriya et al.....1181
The Concentrations of Aminobenzylpenicillin and	
Cefazolin in Thoracic Duct Lymph in Anephric Rats.....	T. Kiriya et al.....1187
The Use of Stomahesive in the Skin Care of	
Abdominal Wall Stomata.....	S. Kamidono et al.....1199
Evaluation of Dibekacin Sulfate in the Treatment of	
Upper Urinary Tract Infections	
—A Clinical Study of Intravenous Administration—.....	T. Kiriya et al.....1205
Intravesical Treatment of Bladder Tumor with FT 207.....	M. Ueda et al.....1211
Treatment of Prostatic Carcinoma with Estramustine Phosphate.....	M. Ueda et al.....1217
Clinical Effect of Estramustine Phosphate (Estracyt®) on Prostatic Cancer.....	T. Teraoka et al.....1227
Conservative Therapy with Hachimijogan for Micturition Disturbances.....	N. Arima et al.....1231
Treatment of Difficulty in Urination with Hachimijogan.....	M. Kuroda et al.....1235

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606.
京都大学医学部泌尿器科学教室

泌尿紀要

Acta Urol.



編 集 後 記

本誌を定期的に発行していく上で困ることがいくつかある。データをいただいて図にトレースし、表に組版し、ゲラを著者校正に出すと全く異なったデータに訂正されることがある。すでに編集部よりのお願いとして公告してあるようにできあがった図や表は、全く新しく一から作り直さない限り直らない。第一、原稿の数値が数カ月後のゲラで全く異なってくるとその先生の成績が全く信用できないものになる。

学会で発表したスライドをそのまま焼き付けて図、表として送ってくることがある。それはそれで結構なのだが、スライドとして使ったときの図、表のタイトルがそのまま残っている。これが説明文と重複して、誠に見苦しい図表になる。せめて自分の論文なのだからそれを消すなり、トリミングをするなどの愛情を原稿に寄せて欲しい。

図や表はキチンと作って欲しい。本誌の図がどんな様式になっているか日頃本誌を見ていればすぐわかるだろう。本誌の図は欧文の雑誌の様式を取り入れたものなのだから欧文を見ている人にはなじみのものだろう。いずれにせよ、御投稿の前に本誌の投稿規程を再読されて、とくに文献の書き方に間違いがないかどうか確認してもらいたい。図などの大きさも本誌の大きさを考えて作成して欲しい。半畳敷き位の大きさの図をもらったときには文字通りあぜんとして、その投稿者の常識を疑った。

(T. K.)

編 集 委 員

石 神 襄 次	前 川 正 信	宮 崎 重
新 谷 浩	園 田 孝 夫	友 吉 唯 夫
桐 山 宮 夫 (副主幹)	吉 田 修 (主 幹)	

購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と 5,000 円 (送料とも) 前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 沁尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名 (フリガナ)、住所 (雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投 稿 内 規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けます。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ , %, PH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR なども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
A. 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次, (論文題名は自由です)
文献名は正式略称を用いてください。
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
B. 単行本の場合 著者氏名: 書名, 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

泌尿器科紀要 第25巻 第11号

1979年11月25日 印刷

1979年11月30日 発行

創刊 稲 田 務 顧問 加 藤 篤 二

定価 500 円 (送料別)

発行 吉 田 修

発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話 (075) 751-3327 (直通)

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入